

雌阿寒岳

○ 火山活動評価：静穏な状況

地震活動や噴煙活動は低調な状態が続いており、火山活動は静穏に経過しています。

○ 概況

- ・ 噴煙活動（図 2）

赤沼 06 火口群や北西斜面 06 噴気孔列の噴煙活動は静穏な状況で推移しており、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100～200m で推移しました。また、ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の高さは、火口縁上おおむね 100m 以下で推移し、特に変化はありませんでした。

- ・ 地震活動（図2、図3、表1）

火山性地震は、1 日あたり 0～6 回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

- ・ 地殻変動 (図 4)

GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

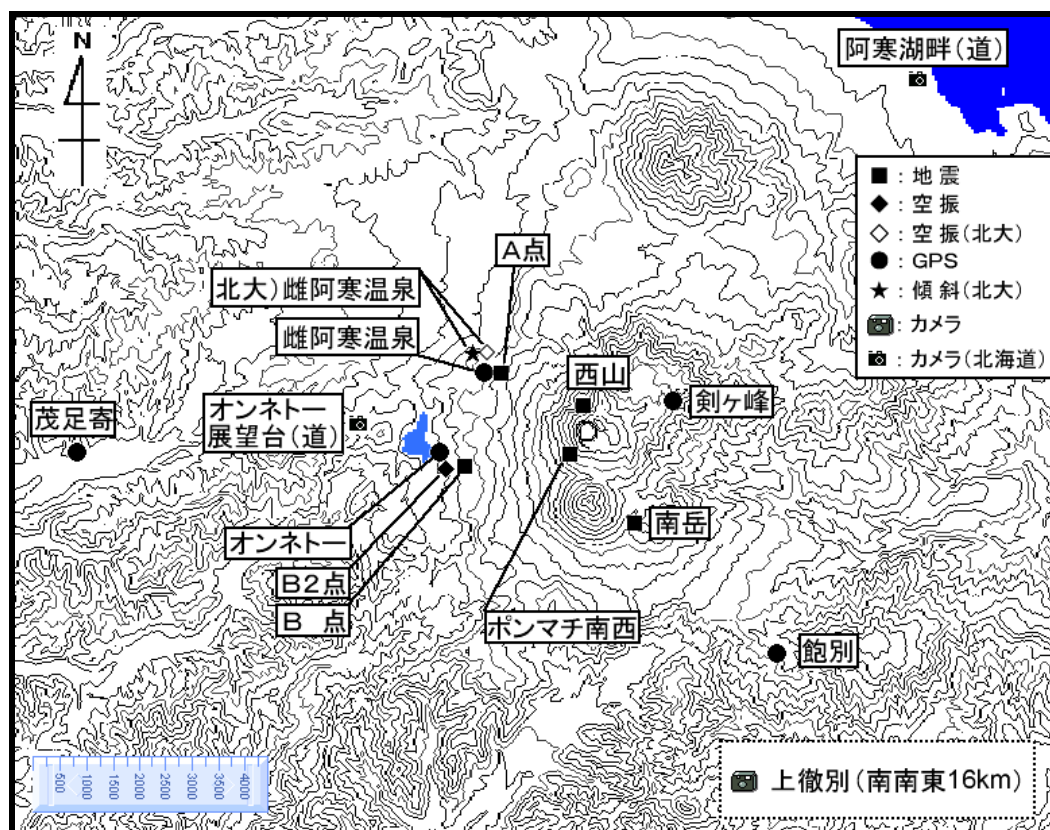


図1 雌阿寒岳火山観測点配置図

資料は気象庁のほか、北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』および『数値地図 10m メッシュ（火山標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

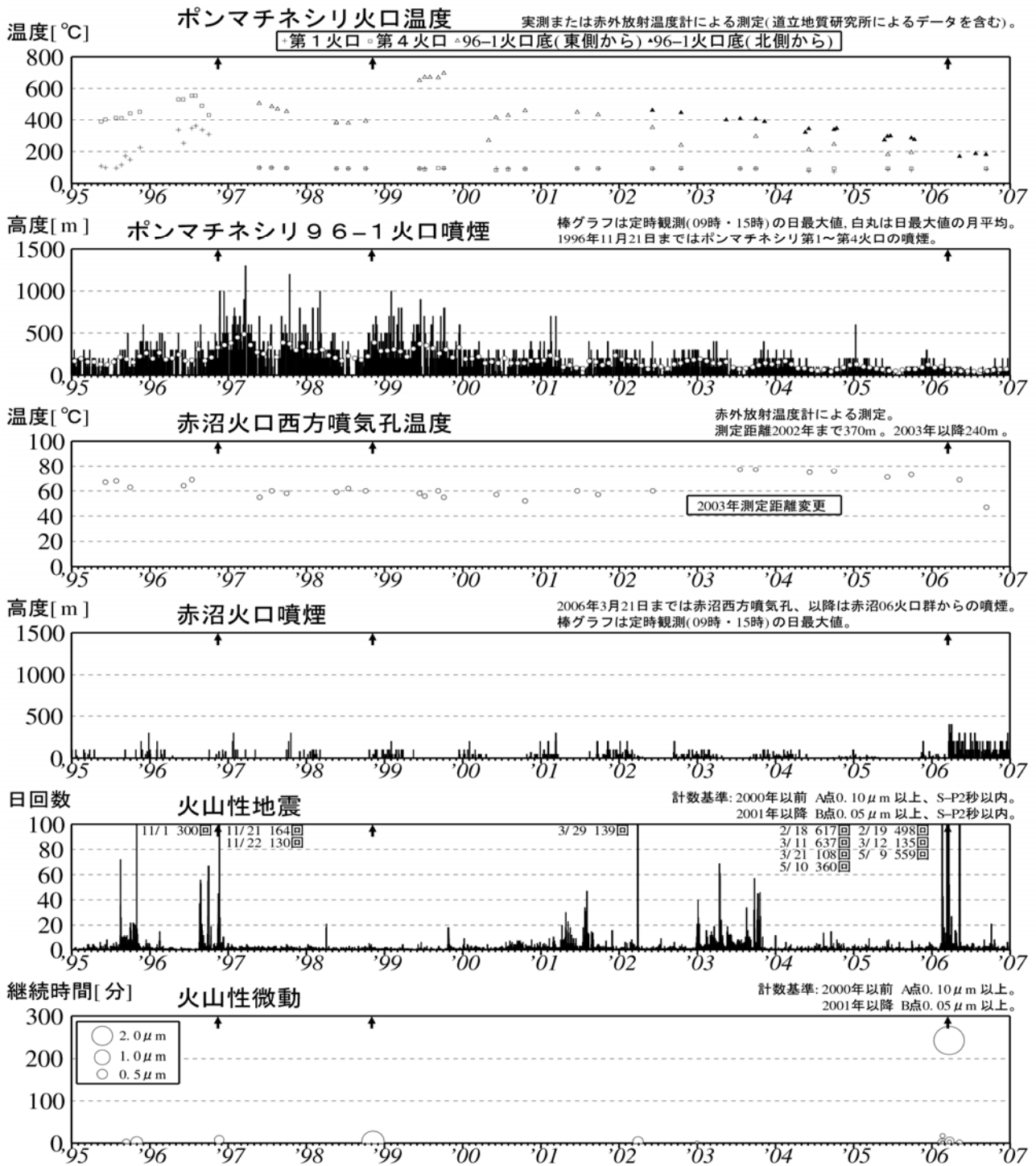


図2 雌阿寒岳 最近の火山活動経過図(1995年1月~2006年12月) ↑印は噴火

(1996年、1998年: ポンマチネシリ 96-1 火口からの噴火、2006年: 赤沼火口からの噴火)

- ・ ポンマチネシリ 96-1 火口の熱活動、噴煙活動は 2000 年以降徐々に低下し、その傾向は 2003 年以降明瞭になっています。2006 年 3 月の小噴火後もこの状況に変化は見られていません。
- ・ 赤沼 06 火口群の噴煙活動は、2006 年 3 月の小噴火後は活発な状態でしたが、その後活動は次第に低下し、最近では静穏な状況で推移しています。
- ・ 地震活動は 2006 年 2 月および 3 月に地震が多発するなど、3 月の小噴火前は活発な状態で推移していましたが、噴火後は 5 月に地震が一時的に多発したほかは少ない状態で経過しています。

表 1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数（B 点：図 3 の MEAB）

2006 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
地震回数	22	1384	1290	128	986	34	34	23	42	79	16	20
微動回数	0	5	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0

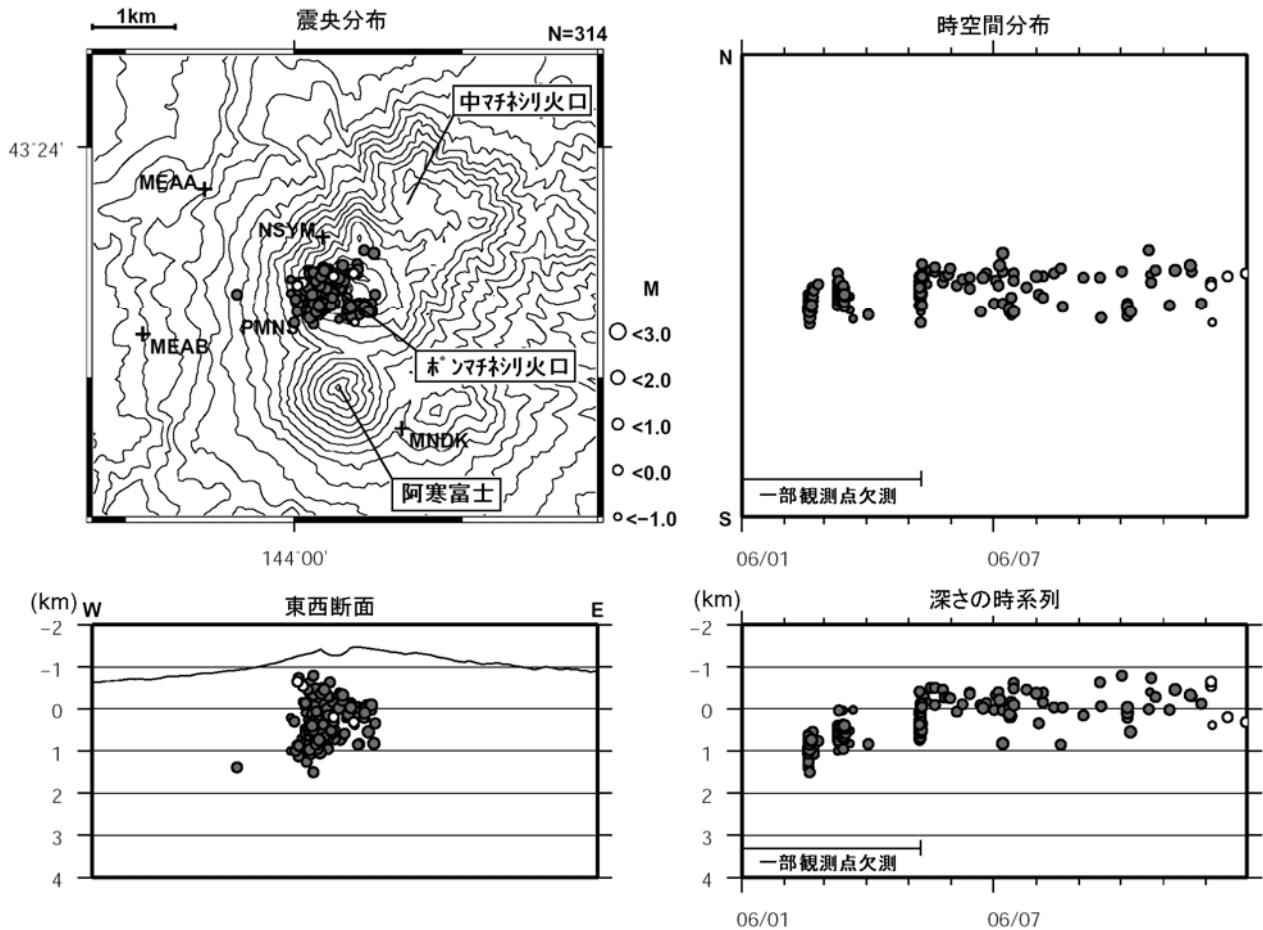


図 3 雌阿寒岳 震源分布図(2006 年 1 月～2006 年 12 月、+は地震観測点)

○印は今期間（2006 年 12 月）の震源

●印は前期間までの 11 ヶ月間（2006 年 1 月～2006 年 11 月）の震源

- ・ 前期間までの震源の多くは、ホンマチネシリ火口直下の浅い所（山頂から深さ 1～3km 付近）に分布しています。今期間に求まった震源もおおむねこの領域内に分布しています。

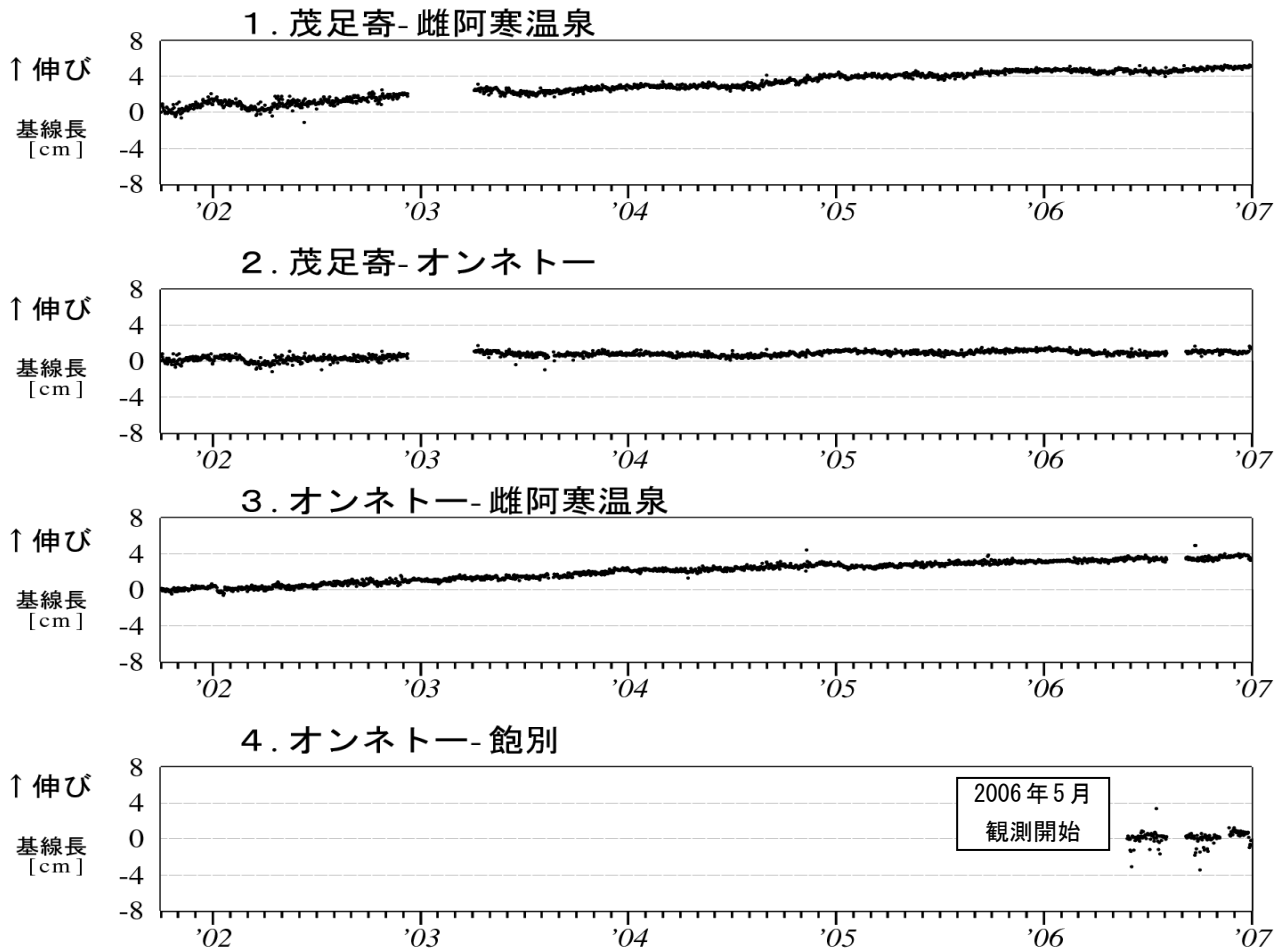


図 4 雌阿寒岳 GPS 連続観測による基線長変化（2001 年 10 月～2006 年 12 月）

グラフの空白部分は欠測

剣ヶ峰観測点は 2006 年 5 月に観測を開始しましたが、11 月に移設したため、グラフは掲載していません。

図 4 の 1～4 は、図 5 の GPS 基線①～④に対応しています。

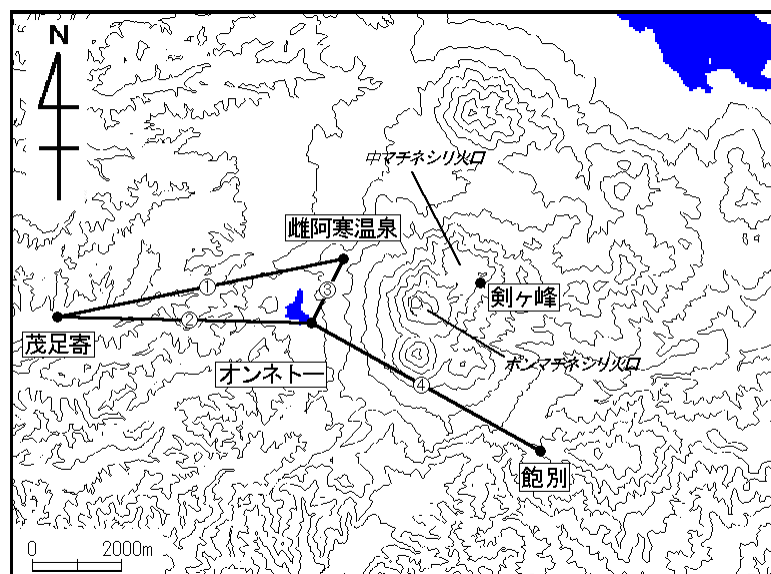


図 5 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図